


事例報告 H28-1

団体名： NPO法人里山倶楽部・河南町立河内小学校（大阪府）

プログラム名： 「河内小学校 学校林活動」		
(1) プログラムの目標	里山倶楽部 地元小学校への環境教育（ESD）支援を通じ地域へ貢献し、里山への理解を広げたい。 河内小学校 自然あふれる里山での体験学習を通して、子どもたちが森や山を守る人々と出会い、自己の生き方を考えるようになってほしい。	
(2) プログラムの概要	3年から6年の4学年、4月から3月までの1年間を通じて活動。 学習指導要領に関連したテーマを各学年で設定。 3年：自然と親しむ、4年竹・昔の暮らし、5年田んぼ・食、6年間伐・木の暮らし 3年（4回）1学期／自然と親しむ春編、夏編 2学期／秋編 3学期／冬編 4年（3回）1学期／竹林整備 2学期／竹食器、竹飯づくり 3学期／竹炭づくり 5年（3回）1学期／田植え、田草取り 2学期／稲刈り 6年（3回）1学期／間伐・皮むき 2学期／間伐材で学校林整備 3学期／記念植樹 学校の授業で事前授業、事後授業を実施。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
i n（～の中で）、a b o u t（～について）、f o r（～のために）の視点で活動内容を区分		
14	3年 自然と親しむ ・「身近な自然と親しもう」 ＜春編校内＞ ・「学校林と親しもう」 ＜夏編＞＜秋編＞＜冬編＞ 事前授業、事後授業（左記時間数外）	学校林に入る前に、校内の身近な自然に目を向けたり、人と人、人と自然とのつながりに気づく。 学校林で自然体験ゲームを通じて、季節による違い感じ、学校林と親しむ。
	i n－自然、森林に関する関心・意欲を高める。	
10	4年 竹・昔の暮らし ・竹林整備 ・竹食器、竹飯づくり 事前授業、事後授業（左記時間数外）	実際に竹を伐採する体験を通して、竹そのものや里山における竹林の状況を学ぶ。 竹食器や竹飯、竹炭づくりを通して、竹の利用、里山の文化、暮らしを学ぶ
	a b o u t－森林や森林文化についての知識・技能を学ぶ。	
8	5年 田んぼ・食 ・田植え ・田草取り ・稲刈り （作って食べる） 事前授業、事後授業（左記時間数外）	田植え、草取り、稲刈り体験を通して、里山、森林の理解を深める。食について考える。
	a b o u t－里山、里山文化についての知識・技能を学ぶ。	



10	6年 間伐・木の暮らし	木を切る、皮をむくという体験から、木の命を実感する。林業についても身近に感じる。間伐した、された材を活用し、物づくりに挑戦する。体験を通じ循環型社会について考える。学校林活動、4年間の締めとして、記念植樹により、卒業後も学校林の学びを思い出せるようにする。地域の緑化という形でも貢献する。	
	・間伐、皮むき ・間伐材による学校林整備 ・記念植樹 事前授業、事後授業（左記時間数外）		
f o rー森林整備、木材工作、植樹を実践。地域貢献も実践する。			

#### (4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

- 河内小学校 3、4、5、6年学校林活動の実施、事前事後授業、全般的な安全管理。
- 里山倶楽部 事前準備と当日の運営指導、現場プログラムにおける安全管理。  
3年 自然体験 担当：里山キッズクラブ事業部  
4年 竹林整備・竹食器竹飯・竹炭 担当：里山事業部  
5年 田んぼ 担当：自然農場  
6年 間伐、間伐材利用、記念植樹 担当：里山事業部  
茶ノ木原学校林の保全・管理 担当：弘川寺千年の森
- 葛城平八（地元農家） 田んぼ体験の受入れと稲の育成管理。

#### (5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

教科・項目、視点		学習内容
自然的特性	植物や動物の生態を知る 自然の変化に気付く	3年：自然と親しむ 校内にある植物など生き物に興味を持ち、校区内にある学校林に範囲を広げる。4年間行うさまざまな自然体験活動の出発地点として、自然を身近に感じるために春・夏・秋・冬の自然の移りかわりを通して学んでいく。
管理・維持	森林の役割を学ぶ 間伐の意味 効率的な製作の工夫	6年：木・ものづくり 理科で学ぶ森林の役割について、校区内の山、法面の間伐を通して学んでいく。間伐した材をもとに、製作の計画を立て、グループや個人での卒業制作（環境整備）を行っていく。
歴史・文化	竹の性質を知る 竹炭の利用	4年：竹・昔の暮らし 竹の性質を学んだ後、学校林にある窯（千年窯）で炭焼きを行う。身近な日常生活でも竹炭が利用されていることを知り、炭の消臭効果や工芸品などとして利用されていることを学ぶ。窯に入れた後、卒業前に子どもたちは持ち帰り、活用する。

#### (6) 活動の分析（資質・能力の視点）

項目	E S Dの要素（7つの能力・態度）の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	「進んで参加する態度」 4年：竹・昔の暮らし 校舎付近にも竹林があり、子どもたちにとって身近な竹について調べ学習をする。「なぜ?」「どうして?」と竹に関する疑問を持たせた上で、活動に取り組ませることで、より主体的な深い学びとなり「知識・技能」の習得につながる。その学ぶスタイルが5年、6年にもつながり、近くの自然について自ら調べ、参加しようとする態度の育成につながる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「コミュニケーションを行う力」 3年：自然と親しむ 校内の身近な自然や学校林の自然のうつりかわりの様子から個人で感じたことをペアやグループでことばで表したりや作品として表現したりすることで、他者理解をすすめることができる。また、複数の子どもと協力しようとする協調性が身につく。学んだことをまとめる・振り返る活動を通して、相手を意識した表現力の育成につながる。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「多面的、総合的に考える力」 6年：木・ものづくり 森林の役割を理解し、間伐の意義を通して身近な生活に生かす工夫を感じる。4年間の学校林活動の中で、他の学年の子どもが学びやすい環境を整備することで、豊かな人間性の構築を行う。

#### (7) 実施後、参加者の変化

- ・自分たちの知らない校区、自然のよさを感じることができている。
- ・教職員も改めて、自然体験、森林体験、校区のよさを感じている。
- ・教科書で学ぶ内容を体験を通して経験することで、深い学びにつなげている。
- ・活動ごとの振り返り、まとめ活動を通して、他者への発信する力が身についてきた。
- ・実際に木材・竹に触れることで、加工されるまでの資源価値を認識し、自然環境保全の意識が高まった。
- ・工具を用いる経験が多いため、図工の工作では、率先し工具を用いようとする姿が見られるようになった。

# NPO法人 里山倶楽部

## 新しい“里山的”生き方・暮らし方の提案

### 1. 里山倶楽部の概要

活動地域：大阪府南河内郡河南町、吹田市万博公園等

会員数：150名（2016年4月）

事業内容：(1)里山保全及び管理事業 (2)環境教育事業(含む、学校林活動) (3)人材養成事業  
(4)流域及び地域の人、もの、経済の循環システムづくりに関する事業  
(5)再生可能エネルギーの導入、普及、啓発事業 (6)棚田保全事業及び農業  
(7)前各号に関する受託事業 (8)その他、本会の目的を達成するために必要な事業

### 2. 地域小学校の学校林活動支援「河内小学校 学校林活動」

対象：河南町立河内(かうち)小学校 3、4、5、6年生（大阪府南河内郡河南町さくら坂）

場所：小学校校内・周辺、茶の木原学校林(校区内)

思い：里山倶楽部 地元小学校への環境教育(ESD)支援を通じ地域へ貢献し、里山への理解を広げたい。  
河内小学校 自然あふれる里山での体験学習を通して、子どもたちが森や山を守る人々と出会い、  
自己の生き方を考えるようになってほしい。

沿革：2002年度 弘川寺歴史と文化の森ふれあい推進協議会発足。

6年 学校林整備のため下草刈り、卒業記念植樹を行う。

2003年度 炭焼き窯完成。竹炭作り、間伐など本格化。歌「河内の山」創作。

2004年度 3年～6年の学校カリキュラムが整う。

2007年度 5年 田んぼ開始。

2009年度 企業助成を得て、カリキュラム見直し・整理プロジェクトに一年かけ取り組む。

全日本学校関係緑化コンクール 学校林等活動の部入選（主催：国土緑化推進機構）

2016年度 カリキュラム見直し。新カリキュラム(現行)開始。

プログラム：

	3年	4年	5年	6年
テーマ	自然と親しむ	竹・昔の暮らし	田んぼ・食	木・ものづくり
	全体検討会 4月			
1学期	事前授業 身近な自然と親しもう <春編校内> 6月 <夏編> 7月	事前授業 竹林整備 6月	事前授業 田植え 6月 田草取り 7月	事前授業 間伐・皮むき 6月
2学期	学校林と親しもう <秋編> 10月	竹食器、竹飯 10月	稲刈り 10月  (作って食べる) 12月	間伐材で学校林整備 11月
3学期	学校林と親しもう <冬編> 1月 事後授業	竹炭づくり 2月 事後授業	事後授業	記念植樹 事後授業 2月
	全体検討会 3月			



自然と親しもう



間伐



間伐材で学校林整備

3. 問合せ・連絡先 里山倶楽部 〒580-0012 大阪府松原市立部1丁目6番3号 TEL&FAX 072-333-0309

ホームページ <http://www.satoyamaclub.org>



# NPO法人里山倶楽部

地域小学校の学校林活動支援 (大阪府南河内郡河南町立河内小学校)

## 3年「自然と親しむ」



身近な自然と親しもう (校庭)



学校林と親しもう「森の宝もの探し」



学校林と親しもう「森の顔づくり」

## 4年「竹・昔の暮らし」



竹の搬出



竹食器づくり



竹飯づくり

## 5年「田んぼ・食」



田植え



田草取り



稲刈り

## 6年「木・ものづくり」



間伐



皮むき



記念植樹



事例報告 H28-3

団体名： 森と水の源流館・川上村立川上小学校（奈良県）

プログラム名： 水のつながりプロジェクト		
(1) プログラムの目標	大和平野及び水源地域のさらなる友好関係を育むことを目的に、大和平野及び水源地域の小学生がそれぞれの地域で見学、体験を行い、交流することで、水源地域と大和平野が吉野川分水で繋がっていることを感じて大和平野の地理、歴史、及び水源地の役割を学習する。	
(2) プログラムの概要	当プロジェクトは、3回に分けて実施した。第1回（6月15日）は橿原市にて田植え体験と水田の生き物の観察、第2回（9月14日）は、川上村にて環境学習と川の生き物しらべ、第3回（10月20日）は橿原市にて稲刈り体験を実施。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in（～の中で）、about（～について）、for（～のために）の視点で活動内容を区分		
1回目 2時間	田植え体験とたんぼの生き物観察	
	川上村を源流とする吉野川からつながる吉野川分水の受水地である橿原市の水田にて田植えと生き物観察を行う。	かわかみ（川上小学校）の児童には、いつも見ている川の水が、分水でたんぼの水になっていることを、かわしも（香久山小学校）の児童には、川上村の水がこの場所に来ていることを想像させる。色々な生き物のはたらきが米作りに役立っていることを気づかせる。
		
体験・観察		
2回目 5時間	源流の水生物観察と森と水の源流館、大滝ダム見学	
	川上村の吉野川源流部の支流である音無川にて、水生物を採集して水質を調べ、講師（専門家）による環境学習を行う。森と水の源流館、大滝ダム学べる防災ステーションの見学（ガイドツアー）を行う。	源流を流れる川の水について、水の冷たさ、美しさなどを川に入って水生物を採集することによって体感的に学びつつ、生き物の種類と水質の指標性を専門家から学び、水源地を守ったり、水を汚さない取り組みや上手に使う取り組みについて施設で学習する。
		
体験・観察		
3回目 2時間 20分	稲刈り体験	
	1回目に田植えをした水田にて、稲刈り作業を行う。	水のめぐみがお米になったこと、コメ作り、収穫が大変なことを体験を通して理解する。後日、収穫したお米を食べる。
		
体験・観察		

**(4) プログラムでの連携内容**

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

大和平野土地改良区  
川上村  
公財)吉野川紀の川源流物語  
(森と水の源流館)

- ・プログラム作成・実施
- ・連絡調整
- ・報告書作成

提案



要望

川上村立川上小学校  
檀原市立香久山小学校

- ・学校内の調整
- ・時間の調整

**(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目**

教科・項目、視点	学習内容
1 感性的経験	田植え、稲刈りを通じて、農作業の大変さを経験し、お米の大切さを学ぶ。 水生生物の採集を通じて、源流の水の冷たさなど自然の美しさを知り、生き物観察の面白さを知る。
2 自然的特性	田んぼの生き物の解説により人間と野生生物の関わりを知る。 源流の水生生物の観察から、水質判定ができることを知り、水を汚してはいけないことを学ぶ。
3 多面的機能	田んぼのお水が源流の川上村の森とつながっていることを知り、源流の森の自然環境を守る大切さを知る。

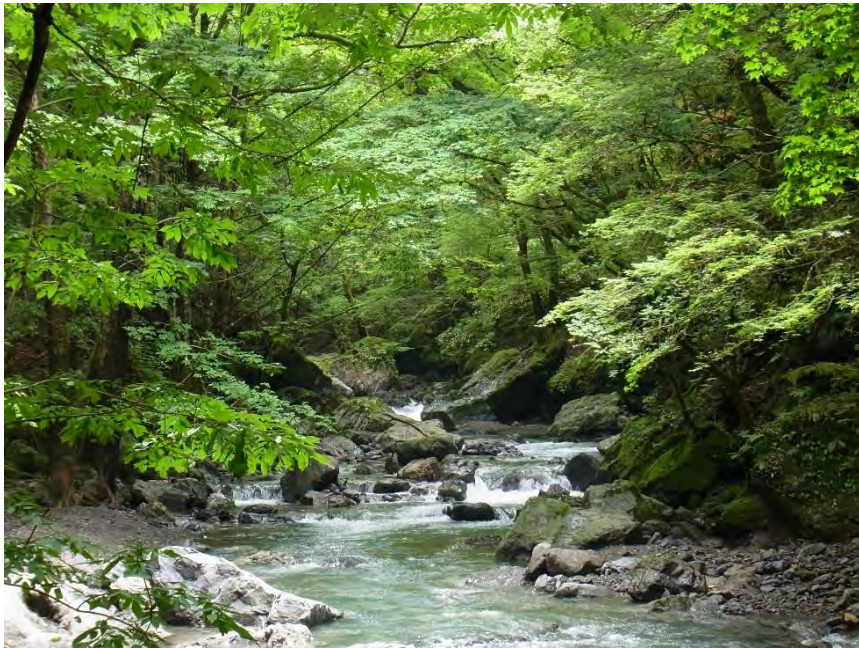
**(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)**

項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	田植えや稲刈りの作業は、農家でないとできない体験を経験する。 普段何気なく接している水を森の多様な生き物の働きで生まれていることを知る。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	源流の生き物調査などを通して、環境を守るための取り組みについて考える。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	田植え、稲刈りを通じて、農家の苦勞を体感的に学び、食べ残しのことや米作りに興味を持つ児童がいた。 源流部での水生生物の観察を通じ、講師より生き物と水の関係が大切なことを学んだ。これによって、水を汚してはいけないことをわかりやすく伝えていった。

**(7) 実施後、参加者の変化**

田植え、稲刈りの大変さを理解した。  
田んぼの生き物が苦手な児童もいたが、そんな生き物でも田んぼの役に立つものがあることが分かった。  
お米(食べもの)の大切さを理解した。

# 「吉野川源流－水源地の森」の取り組み



## 吉野川源流－水源地の森の生き物



トガサワラ



キヨスミウツボ



ヒロハシノブイトゴケ



ニホンカモシカ



ナガレヒキガエル



オオセンチコガネ

## 「吉野川源流－水源地の森」

川上村は川上宣言を具現化するため、吉野川・紀の川源流、三之公天然林約740haを購入し・保全しています。

森の中では今、この瞬間も様々な動植物が生息・生育し、森林生態系を支え、私たちに森のめぐみをお届けしています。

## 水源地の森を守るために私たちができること

多様な主体との相互理解・連携を進めています。



### 自然生態調査

水源地の森の自然の状況を科学的に調査・記録し、保全に役立てます。



### 水源地の森ツアー

水源地の森の大切さを、わかりやすく伝えます。この参加者の中からもボランティアスタッフなど“森の担い手”が育っています。

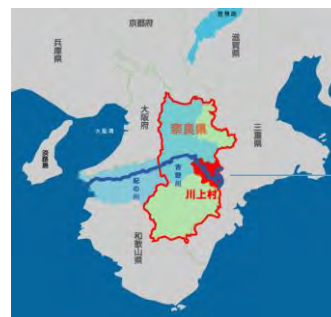


### 学校・教育機関との連携

次代を担う子どもや若者たちに自然の大切さを伝えることはとても大切なことです。小学校から大学まで多様な体験プログラムを展開しています。

## 川上宣言

- 一、私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 一、私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 一、私たち川上は、都市や平野部の人たちにも川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 一、私たち川上は、これから育つ子供たちが、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- 一、私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。



川上村村有林「吉野川源流－水源地の森」は、条例により一般の立ち入りを制限しています。原生林をそのまま保全するため、歩きやすい遊歩道なども設置していません。一般の入山は公募により実施する「水源地の森ツアー」など環境学習ツアーをご利用ください。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



奈良県吉野郡川上村宮の平  
電話 0746-52-0888  
ファックス 0746-52-0388  
<http://www.genryuu.or.jp/>

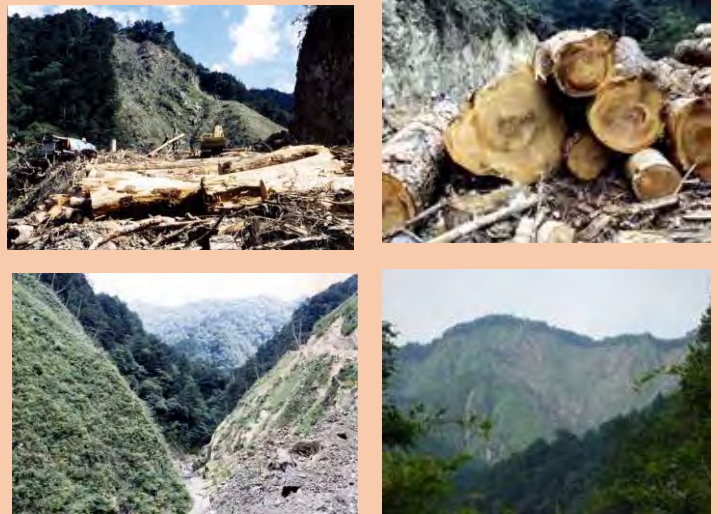
# 源流学の森づくり 奈良県 川上村

## 吉野林業が守った吉野川源流域の原生林



室町時代より植林・育林による林業が行われた川上村では、奥山の伐採の必要がなくなり、吉野川源流部に大規模な原生林が最近まで残されてきました。また、人工林でも伝統的な施業管理の下、多様な生物多様性が維持されてきました。

## 源流域でのパルプ材開発



1980年代から吉野川源流域でパルプ材開発により、最後まで残されていた大規模な原生林の伐採が進みました。その後、放置され、谷が埋まるなど源流域の自然環境が悪化しました。

## 源流学の森づくりをはじめました(2002年～)



2002年より伐採跡地でボランティアによる森づくりを展開。基地となる小屋もみんなで作りました。川上村の森ではたらいってきた達人に、森の知識を聞きながら、上下流の交流を図り、山村の民俗知識を後世に残す場、自然観察の場としても展開しています。



やぶのように密になった細い木々の森



下層植生が見られる里山のような森



土砂崩壊が止まらない斜面



芽吹き of 岩で再生を促す

※残っていた原生林約740haは、川上村が平成11年～12年に購入し、「吉野川源流一水源地の森」と名付け保全しています。

## 流域・企業との連携もすすめています

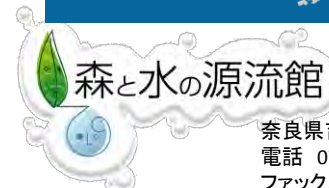
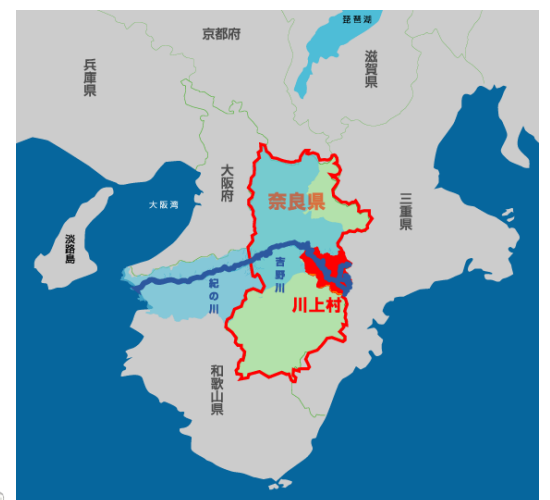
吉野川・紀の川流域市町村や企業と連携した、森づくり活動も展開しています。



和歌山市民の森づくり



関西電力労働組合かわかみの森づくり




奈良県吉野郡川上村宮の平  
電話 0746-52-0888  
ファックス 0746-52-0388  
<http://www.genryuu.or.jp/>



事例報告 H28-4

団体名： 下松市立米川小学校（山口県）・米川地区教育造林振興会

プログラム名： 児童と地域住民をつなぐ森林環境教育活動をめざして		
(1) プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の身近な自然環境に親しませる。</li> <li>・児童と地域住民との関わりを深める。</li> <li>・地域と学校の協働による環境教育活動の方策を検討する。</li> </ul>	
(2) プログラムの概要	<p>下松市立米川小学校は周囲を山に囲まれた全校児童15名の小規模校である。約9haの学校林を所有するとともに、“米泉湖緑の少年隊”として「総合的な学習の時間」を中心に環境学習や身近な地域の環境保全活動に取り組んでいる。</p> <p>本プログラムは、学校林を始めとする学校や地域の特色、自然環境を生かした体験的な活動を行うことにより、自然の恵みや地域の人々の支えに感謝し、自然や人に学ぶ態度を育むことを目的とするものである。</p>	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in（～の中で）、about（～について）、for（～のために）の視点で活動内容を区分		
7.5	山菜採り遠足（4月）	<p>全校児童と保護者、地域住民で学校から5km離れた西谷学校林に出かける。学校林では防火標語の取り付けや枯れ枝の片付け等の整備を行う。周辺の休耕田に自生する山菜の採集や、事前に採集した山野草の名前を当てるクイズを行う。高学年は山頂の史跡の見学、低・中学年はノコギリで丸太切り体験を行う。</p>
	<p>事前に教員と教育造林振興会理事とで下見を行い、危険箇所等の把握を行う。児童は縦割り班で行動し、上学年が下学年の世話をする。行き帰りの山道で見られる動植物の説明を自然観察指導員が行う。山野草は理事が事前に採集、名前当てクイズや丸太切り体験は理事が指導し、教員や保護者が補助につく。各学年で事前・事後の指導を行う。</p>	
  		
in 身近な地域の春の自然に触れるとともに、学校林の管理・維持への関心を高める。		
1	山菜を味わう会（4月）	<p>地域で採れた山菜を天ぷらにして給食に添え、教育造林振興会理事と自然観察指導員を招いて一緒に食べながら交流する。</p>
	<p>コゴミやタラの芽、ウドなど地域で採れる山菜について紹介する。進行は児童が行い、理事は各テーブルに分かれて入る。食後に児童が感想やお礼の言葉を発表する。</p>	
		
about お世話になった人とふれあいを深め、地域の自然や人への感謝の思いを表現する。		
2	栗拾い（10月）	<p>学校に近い中原学校林で栗拾いを行う。栗は教員と児童で下処理を行い、栗ごはんとして給食で試食する。</p>
	<p>事前に教員と造林振興会理事とで下見を行い、理事を中心に草刈りを行う。特に、イノシシの痕跡、スズメバチの巣などがいないか確認しておく。傾斜が急な箇所もあるため、児童にはヘルメットを着用させ、安全管理に十分留意する。栗の皮のむき方は、上学年が下学年に教える。</p>	
 		
in 身近な地域の秋の自然に触れるとともに、学校林の管理・維持への関心を高める。		

2	水源のもり植樹祭（2月）	<p>徳山東ロータリークラブ主催の植樹祭に“米泉湖緑の少年隊”として3年生以上の児童が参加し、滝の口親水公園付近の“水源のもり”に自分の名札をつけたヤマモミジなどを植樹する。</p> <p>森林のもつ水源涵養機能について学年段階に応じた事前指導を行い、森林を守り育てることへの意欲を高めさせる。植樹の仕方について米川地区環境整備協会が指導する。</p>	
	f o r 自然環境を守ることに関心をもち、自分にできることを考え、行動する。		

#### （４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

- ①連携・協働先  
 ・米川地区教育造林振興会 ・徳山東ロータリークラブ ・米川地区環境整備協会
- ②役割分担  
 プログラムの実施にあたり、運営主体は学校であるが、米川地区教育造林振興会理事の協力の下で各プログラムを実施する。水源のもり植樹は徳山東ロータリークラブが主催し米川地区環境整備協会が指導する。
- ③具体的な連携・協働の内容  
 山菜採り遠足や栗拾いでは事前に教育造林振興会理事会を開催し、実施計画の検討や準備を行う。個々の活動の指導についても理事にお願いする。  
 山菜採り遠足は地域の恒例行事として、保護者はもとより地域住民の参加もある。参加する地域住民には児童の安全管理の面で協力してもらおう。また、自然観察指導員に動植物の解説をお願いする。  
 水源のもり植樹祭においては、米川地区環境整備協会員に植樹作業の指導をお願いする。

#### （５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
2 自然的特性 生活：身近な自然の観察、利用 理科：生物と環境 植物の成長、結実 季節と生物	山菜採り遠足では、行き帰りの山道で見られる植物や野鳥などを自然観察指導員の解説から学ぶ。また、自生する山菜の採集やクイズなどを通じて多様な植物が身近にあることを理解する。 栗拾いでは、栗の様子だけでなく、ハゼノキやイノシシの足跡等から身近な動植物の生態や特徴を知り、対処法等を身につける。
3 多面的機能 社会：国土の自然・環境 飲料水	人の手によって植林され、整備された学校林と、遠足の道中に見られる自然林の違いを見て感じ取るとともに、木材生産や果樹林としての森林の役割や、「水源のもり」の果たす、水をたくわえ、長い時間をかけて流すはたらき、土の流出を木々の根が防ぐはたらきなど、森林と生活との関わりについて理解を深める。
5 管理・維持 社会：国土保全 地域の生活	学校林の目的や経緯、植林した森林を管理していくことの大変さや作業の苦労等について、教育造林振興会理事や地域住民の説明を聞くとともに、防火標語の設置や枯れ枝を集める等の整備活動、ノコギリを使った丸太切り等を通じて体験的に学ぶ。

#### （６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	5 他者と協力する態度 活動のほとんどを学年単位ではなく縦割りの班編制で行うことで、周りの人に対する配慮や協力の意識の高まりを促し、よりよい人間関係づくりにつなげる。また、上学年の児童が下学年の世話を行い、下学年児童は上級生に教えられたり真似たりしながら活動に必要な知識や「生活のわざ」を伝えていく。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	4 コミュニケーションを行う力 いずれの活動においても、最後に振り返りの時間を持ち、児童一人一人が活動を通して感じたことを発表するとともに、代表の児童が指導者へのお礼を述べる。お互いの感想を聞き合うことで、一人一人の感じ方や表現の仕方の違いを知り、小規模校の課題である表現力の育成やコミュニケーション能力の向上につなげる。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	6 つながりを尊重する態度 多様な森林（スギやヒノキ、クリの学校林や地域の自然林、水源のもり）や自然環境（山道や沢の動植物、山菜）と自己の生活との関わり、お世話になる地域の人や保護者、児童同士のよりよい関わり合い方、また、伝統を受け継ぎ次代へ伝える役割を担うこと等について体験を通じて意識化させる。

#### （７）実施後、参加者の変化

実施後の振り返りから  
 <教職員>  
 ・山を歩くことに不慣れだった1年生も一日の活動を通して自然に触れることの喜びを味わうことができ、帰路は難なく山道を下りました。丸太をノコギリで切る体験は達成感があったようで、何回も挑戦していました。  
 ・山菜採りや栗拾いなどの体験は米川小でしかできないことと話していました。造林の方々に心を込めてお礼の手紙を書きました。

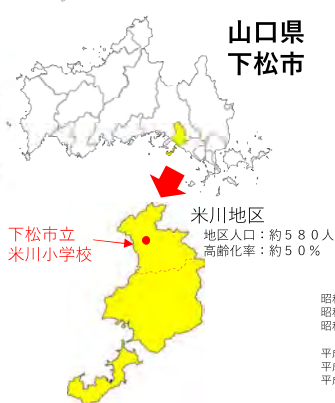
<児童>  
 ・遠足の途中、いろいろな植物や動物が争ったような跡がありました。身近な自然について学ぶことができました。  
 ・防火標語を取り付けるとき、学校林の木が去年より大きくなっているようでした。何十年もかけて育った木を大切にしていきたいと思います。

# 下松市立米川小学校 米川地区教育造林振興会

## 学校と地域をつなぐ森林環境教育活動



**米川小学校**  
児童数：15人  
教職員数：7名



米川地区教育造林振興会  
理事の皆さんと児童

学校林活動関係の主な受賞歴

昭和45年 全国学校造林コンクール 特選 第1位  
昭和57年 全国学校林活動コンクール 特選  
昭和60年 緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰  
山口県メダル栄光文化賞  
平成14年 ノースロップ賞 (米川地区教育造林振興会)  
平成15年 山口県メダル栄光文化賞 ( )  
平成21年 水資源保全活動 国土交通大臣表彰

**米川地区教育造林振興会**

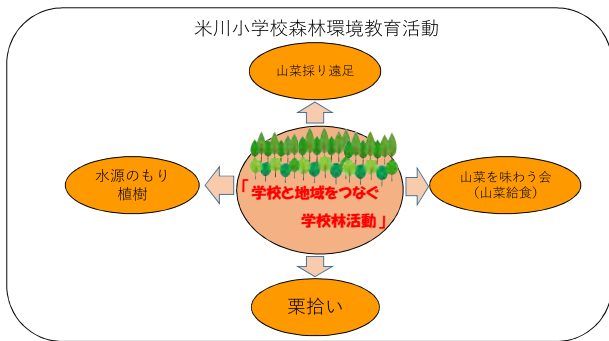
(目的)  
第2条 本会は下松林野条例に基づき、米川小学校植林の振興をはかることによって、学校教育の向上を資することを目的とする。

(事業)  
第3条 本会は第2条の目的を達成するため次の事業を行う。  
1 学校林地の植林  
2 その他目的達成に必要な事業

(会員)  
第4条 本会は米川地区在住の全戸をもって会員とする。  
(米川地区教育造林振興会規約)



米川小学校林地 (約9ha)



米川地区教育造林振興会理事会

### 山菜採り遠足 (4月)

学校林のある西谷地区への片道5kmの遠足 (学校・教育造林振興会・保護者・地域住民)



丸太切り体験



学校林の整備作業 (防火標語付け・枯れ枝拾い)

西谷学校林 約5ha  
(スギ・ヒノキ)  
林齢50~60年



山菜(コゴミ)採り



山菜クイズ



山菜を味わう会（山菜給食）

地域の山菜を給食に添えた会食（学校・教育造林振興会）



地域の自然の恵みと、支えてくださる方への感謝

栗拾い  
(10月)

学校から1kmの中原学校林での栗の収穫（学校・教育造林振興会）



中原学校林  
約2ha  
(スギ・クリ)

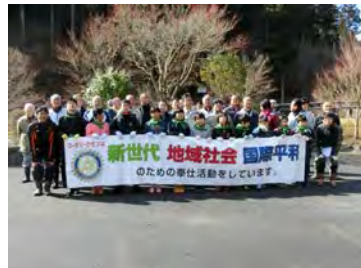


皮むき（昨年度）

秋の里山の自然に親しみ、収穫の喜びを味わう

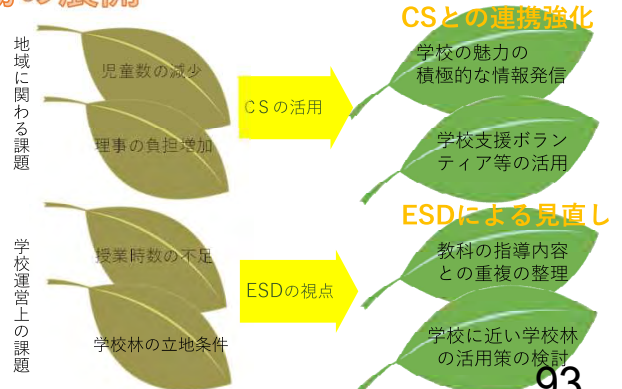
水源のもり植樹  
(2月)

“米泉湖緑の少年隊”3年生以上が参加（学校・徳山東ロータリークラブ・米川地区環境整備協会）



環境保全について学び、進んで地域に貢献する子どもの育成

今後の活動の展開





事例報告 H28-5

団体名： 庄原市立峰田小学校（広島県）  
アサヒグループホールディングス（株）アサヒの森環境保全事務所

プログラム名： アサヒの森体験活動		
(1) プログラムの目標	<p>1 多様な思考力の育成 ○小さな気付きを大切にしながら、事象の本質に迫る課題発見につなげ、課題解決に向けた多様な考え方を身に付けさせる。【創造性】</p> <p>2 協同による課題解決力の育成 ○現実を受け入れ、他者を尊重しながら、より良い解決策をチームで探る関わり能力を身に付けさせる。【コミュニケーション能力】</p> <p>3 自己判断と決定を伴う主体性の育成 ○課題解決に向け自己の考えを確立し、事象に積極的に関わろうとする力を身に付けさせる。【行動力】</p>	
(2) プログラムの概要	<p>《総合的な学習の時間を中心とするカリキュラム・マネジメントによる授業構成》</p> <p>1 年間指導計画による各学年の実践テーマ（平成28年度版：各学期4～6時間扱い）</p> <p>【3/4学年】テーマ「ふるさとじまん探検隊」→→→単元ゴール『ふるさとじまんカルタ』を作ろう。</p> <p>【5学年】テーマ「私たちのふるさと！産業と町づくり」→→→単元ゴール『ふるさとパンフレット』と作ろう。</p> <p>【6学年】テーマ「地域の環境を守ろう」→→→単元ゴール『地域のよさ・自分たちにできる環境保全を（壁新聞等で）発信しよう。』</p>	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in（～の中で）、about（～について）、for（～のために）の視点で活動内容を区分		
1学期 4時間	アサヒの森環境教育プログラム『水の役割・木を使う』	
	<p>【in】○全学年「夏のアサヒを探索しよう」→森林散策→浄化実験→丸太切り→工作→振り返り</p> <p>【about】○現地での学び合い活動（グループ）→散策情報の提供→浄化の不思議→のこ技能伝授→自然アートのアイデア紹介</p>	<p>【in：体験活動では】①実際の森林を自分の五感で捉える。②気づきや疑問点は積極的にたずねよう。</p> <p>【about：調査・相互学習では】①自分の気づきや考えを積極的に伝えよう。②疑問・質問は積極的にたずねよう。</p> <p>【for：解決学習では】①伝えたいことは分かりやすく、考えてみたいことは課題解決に向けてやりきろう。</p>
【for】1学期の体験活動を受けて→環境新聞としてまとめ or 夏の工作及び科学研究への意欲付け		
2学期 4時間 ※森に親しもう	アサヒの森環境教育プログラム『森の親しむ』	
	<p>【in】○全学年「実りの秋のアサヒを探索しよう」→森林散策→植物図鑑作り→味噌汁・焼きおにぎり体験→シイタケ植菌体験→振り返り</p> <p>【about】○現地での学び合い活動（グループ）→散策情報の提供→樹木・葉の共有化→昼食づくりの役割分担→植菌作業のコツ伝授</p>	<p>【in：体験活動では】①実際の森林を自分の五感で捉える。②疑問点は積極的にたずねよう。③研究課題を1点見つけよう。</p> <p>【about：調査・相互学習では】①自分の気づきや考えを積極的に伝えよう。②質問は積極的に。③見つけた課題を解決しよう。</p> <p>【for：解決学習では】①伝えたいことはより深く、研究課題の取組でお互いの良さを認め合おう。</p>
【for】2学期の活動→植物図鑑・樹木検索完成、学習発表会台本作り、myお弁当作りの意欲付け		



3学期 4時間 ※森の恵み	アサヒの森環境教育プログラム『森の恵み』	<p>【in: 体験活動では】①実際の森林を自分の五感で捉える。②疑問点は積極的にたずねよう。③生命存在の根拠を持ち帰ろう。</p> <p>【about: 調査・相互学習では】①自分の気づきや考えを積極的に伝えよう。②質問は積極的に。③新たな経験を持ち帰ろう。</p> <p>【for: 解決学習では】①周辺環境と私たちの暮らしを結び付けて、自分の考えをまとめよう。②次年度のプログラムを考えよう。</p>	
	【for】3学期の活動→各学年の年間ゴール達成を目指す。次年度のマイプラン作りで意欲付け		

3学期 2時間	ことばの教育年間計画：体験活動等を通して、相手意識や目的意識をもって話す力を育てる。		
	全校スピーチ大会	<p>【about: 調査・相互学習】①これまでの学習や生活を基に、自分の考えをまとめ発信しよう。②友達の発表を聞き、表現方法の良さを学ぼう。</p> <p>【for: 解決学習】①自分の考えていた発表内容を振り返り、P D C Aサイクルで新たなチャレンジ精神をもとう。</p>	

**(4) プログラムでの連携内容**

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

- ①連携・協働先
  - ・アサヒの森環境保全事務所⇄庄原市立峰田小学校
- ②役割分担
  - ・アサヒの森環境保全事務所→体験プログラムの開発及び修正、現地指導、原材料・器具等の準備 等
  - ・峰田小学校→プログラム開発要請及び協議、児童の安全指導、教材準備、体験活動事前・事後指導 等
- ③具体的な連携・協働の内容
  - ・体験内容による現地の学習環境整備
  - ・小学校の行事及び授業進度を見通しての開催時期の調整
  - ・当日の体験活動の役割分担と準物の確認

**(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目**

教科・項目、視点	学習内容
<p>《理科》</p> <p>○3年：植物の一生、昆虫観察</p> <p>○4年：季節と生き物、水の行方</p> <p>○5年：植物の成長、生命の誕生、気象と水の行方</p> <p>○6年：生物と環境、自然とともに</p>	<p>【3年】《植物・昆虫》身の周りの生物の様子や周辺環境について、興味・関心をもつ。</p> <p>【4年】《季節》動物の活動や植物の成長に興味・関心を持ち、観察・記録をする中で生物を愛護する実践力を高める。《水》水の姿の変化を自然界と関連付けて考える。</p> <p>【5年】《植物・生命》動植物の誕生・発芽・成長を捉え、生命の連続性を考えるとともに生命尊重の実践力をもち、《気象》天気の変化と自然界の関わりに興味・関心をもつ。</p> <p>【6年】《生物・環境》動植物の創りを理解し、生命の維持・尊重の実践力を高める。《自然》大地の変化と災害を関連付け、自然の大きさ・身近な環境問題等を考える。</p>
<p>《社会科》</p> <p>○3年：働く人と私たちの暮らし</p> <p>○4年：私たちの県・郷土の発展</p> <p>○5年：私たちの国土、生活と環境</p> <p>○6年：世界とのつながり、復興実現</p>	<p>【3年】人々の健康な生活や生活環境及び安全を守る諸活動について理解する。</p> <p>【4年】地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを知る。</p> <p>【5年】《国土》我が国の国土の様子、国土の環境と生活の関連を理解し、環境の保全や自然災害防止の重要性に関心を深める。《環境》産業の発展と生活の関連に関心をもつ。</p> <p>【6年】《世界》国家・社会の発展に貢献した先人や優れた文化遺産に興味・関心をもつとともに国を愛する心をもたせる。《復興》災害復旧・復興の取組と地方公共団体及び国の働きに関心をもつ。</p>
<p>《国語科》</p> <p>○3年：インタビュー、心に残ったことを伝えよう</p> <p>4年：新聞を作ろう、私の考え</p> <p>5年：討論しよう、伝えよう</p> <p>6年：随筆を書こう、資料を生かして、町の将来を描こう</p>	<p>【3年】《インタビュー》要点をメモしながら聞く。《伝えよう》構成を考え、出来事の様子やその時の気持ちが伝わる文書を書く。《グループ》司会の進行で話し合う。</p> <p>【4年】《新聞》見出し・割付を考え新聞を作る。《私》理由を明確にし文章を書く。</p> <p>【5年】《討論》主張と理由を明確にし、計画的に討論する。《伝えよう》経験を振り返り、活動報告を書く。《新聞》記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る。</p> <p>【6年】《随筆》事実と感想・意見を区別して随筆を書く。《資料》複数の資料から効果的なものを選び文章を書く。《町》情報を目的に応じて活用し発表する。</p>

**(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)**

項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	<p>○森林散策・・・事実に基づく客観的情報収集と生活体験への発展的基礎を有す。                      ○丸太切り、みそ汁・焼きおにぎり体験、シイタケ植菌体験スノーシューハイク体験、大かまくら・ソリー体験、ヒノキストープ体験 等・・・実感的な生活体験により、コミュニケーション能力及び深い思考への基礎を有す。</p>
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	<p>○浄化実験、植物図鑑作り、巣箱づくり 等・・・自らの考えを基に、他者との関わりや協議を通して、新たな価値づくりへの基礎を有す。</p>
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	<p>○各種共同作業、振り返り活動 等・・・お互いの考えや行動を認め合いながら、学び合いの組織化ができる。                      ○全校スピーチ大会・・・自らの経験を通して、発表原稿・表現方法の工夫・スピーチ練習を通して、相手意識をもった話し方及び感想発表を伴う聞き方などを育成し、アサヒの森体験活動に係るPDCAサイクルの学びを有す。</p>

**(7) 実施後、参加者の変化**

○他教科等への発展・・・参加児童は、体験活動を通して多面的な活用方法及び課題発見・課題解決学習を意識するようになった。【例】科学研究作品募集への意欲と応用、学習発表会におけるシナリオ作りと環境保全の扱い、高学年の手作りお弁当(教科書題材の活用)のメニュー開発 等々

○人間関係能力の広がり・・・児童会自主的活動参加への積極性 【例】高学年のリーダー機能と全校レクレーション活動の広がり、トラブル発生の低率化 等々

○教職員による地域教材の開発・・・【例】社会科による地元農産物のフィールドワークと聞き取り調査、総合学習による地元文化財の掘り起し活動、道徳によるホタル生息維持の地元活動の題材化 等々

○保護者・地域の期待感・・・アサヒの森体験活動を基にした関連及び発展教材による情報発信等で、本校に対する支援と協力体制が前進の方向にある。

# 広島県 庄原市立峰田小学校

## 地域に根ざす特色ある学校づくりをめざして(実践例)

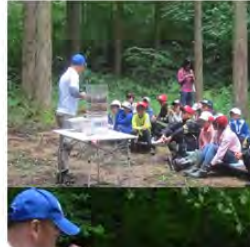
広島県庄原市立峰田小学校

### 1 アサヒの森体験活動(アサヒの森環境保全事務所との連携) 【1学期】

【夏のアサヒを探索しよう！】



森林へ向け レッツ・ゴー



驚きの森林パワー



コツがつかめた！！



見て見ていいでしょう！



#### 1学期のプログラム

- 森林散策
- 浄化実験(森林の力)
- 丸太切り体験
- 森林まるごと工作
- 振り返り

### 1 アサヒの森体験活動(アサヒの森環境保全事務所との連携)

【2学期】

【秋のアサヒを探索しよう！】



森林散策で発見・発見！

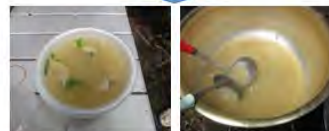


#### 2学期のプログラム

- 森林散策
- 植物図鑑作り
- 味噌汁・焼きおにぎり
- シイタケ植菌体験
- 振り返り



調べ学習で完成



「ごちそうさまでした。」



ドリルが使えました！



# 1 アサヒの森体験活動(アサヒの森環境保全事務所との連携)

【昨年3学期】

【冬のアサヒを探索しよう！】



オリエンテーションより



雪上では大変便利

どこへかけますか

これは不思議です

### 3学期のプログラム

- スノーシュー体験
- 巣箱作り
- 大かまくら・ソリー
- ヒノキストーブ体験
- 振り返り



ヤッホー

# 2 学習後の発展教材として(学習発表会・科学研究応募・道徳教材 等)

《1 学習発表会では》

～地域教材の開発として 保護者・地域へアピール～

1年目⇒



アサヒの森名場面紹介



地域教材開発  
ホタルの生息活動



地域教材開発  
史跡文化の発掘

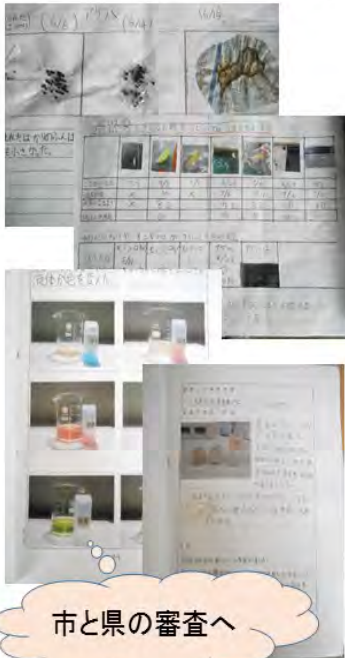
2年目⇒



環境保全問題へステップ・アップ  
※タヌキと地域開発の共存テーマ

## 2 学習後の発展教材として(学習発表会・科学研究応募・道徳教材 等)

### 《2 科学研究作品では》



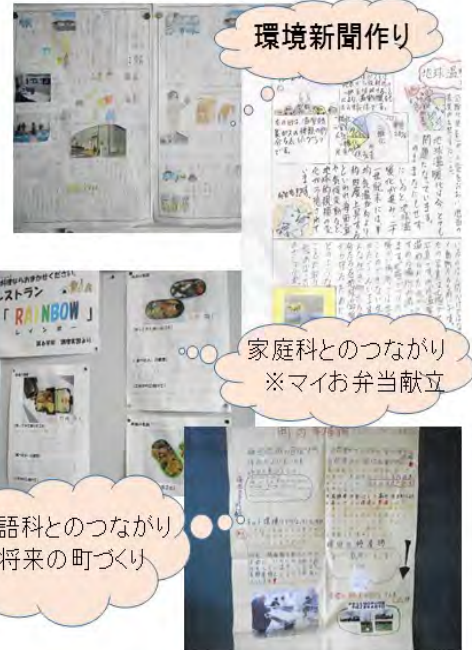
市と県の審査へ

### 《3 道徳では》



地域とのつながり  
 ※地域の教材化  
 ※ゲストティーチャー  
 ※ハウレンソウ・ナシ作り農家へも拡大

### 《4 その他でも》



環境新聞作り

家庭科とのつながり  
 ※マイお弁当献立

国語科とのつながり  
 ※将来の町づくり

## 3 今後に向けて

○児童・保護者・地域の現状を受けた 今後の展望に向けて

### 【+αとして見えてきたもの】



後輩へのやさしさ



焼き芋プレゼント



全校遊びの工夫



防災教室の開催

### 《保護者・地域にとって》

#### ★積極的な情報発信

- ・「学校の取組がよく分かる。」
- ・「子供たちの発表で、知らなかった地域のことが分かった。」

★本校児童に付けたい  
 資質・能力の見極め

★更なるカリキュラム・  
 マネジメントの推進





PTA防災教室へ発展

事例報告 H28-6(1)

団体名： 箕面市立豊川北小学校（大阪府）・（箕面森林ふれあい推進センター外）

プログラム名： 森の探検隊		
(1) プログラムの目標	<p>森林を活用して、動植物の生態を知ること。森林があることで生活にどう関係しているかを知ること。</p> <p>探検ポイントを設定して、それを回りながら、自然との関わりなどを学習する。</p> <p>森林の中に入ることで、自然と親しむことが気持ちのいいことであることを体感することができる。</p> <p>自分たちの身近な所に素晴らしい自然があり、その自然を自分たちの手で守っていかねばならないということに気付く。</p>	
(2) プログラムの概要	<p>事前に班分けと役割分担をすること。</p> <p>回るポイントが重複したり、似たような設問ポイントとならないように、グループ分けしたポイントから、班ごとに回るポイントを決める。</p> <p>4名～5名の班で、探検ポイントを回って、ポイントで出される質問の答えを考える。</p> <p>質問は、そのポイント周辺を観察することでわかるものや森林や昆虫・動植物、環境に関する課題などを出している。</p> <p>回答用のカードに設問、ヒント、答え、感じたことなどを記入する。</p> <p>学校に持ち帰って、回答を整理し、模造紙にポイントの回答と体験して感じたことなどをとりまとめる。</p> <p>各班による発表会を実施し、発表や質疑により地元にある箕面の山、森林環境について学ぶ。</p>	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	in（～の中で）、about（～について）、for（～のために）の視点で活動内容を区分	
1	森の探検隊のための準備	
	<p>探検ポイントをグループで決める。</p> <p>グループ内の役割分担を決める。</p>	<p>回るポイントや学習する内容が重複しないように、児童の希望を聞きながら事前に振り分ける。</p> <p>役割分担をすることで各人の責任を与えること。</p> <p>班で発表することを事前に伝えることで、班で協力して取り組むことを意識してもらう。</p> <p>各班にリーダーシップの取れる児童の配置。</p> <p>支援児童への配慮。</p>
2	森の探検隊	
	<p>探検ポイントを回り設問内容の回答を考える。</p> <p>大人のリーダーに疑問点を質問する。</p>	<p>子どもたちの自主性を尊重し、分担した役割を果たすように誘導する。</p> <p>間違っていたり、わからない場合は助言する。</p> <p>発表に必要な観点で写真を撮るように指示する。</p>
2	フォトフレーム作り、自然工作、水辺の生き物調査、ビジターセンター見学	
	<p>森の探検隊で拾った自然のものを使ってフォトフレームを作成する。</p> <p>木の実や木の枝などを使って自然工作をする。</p> <p>ビジターセンターで箕面に生息する生物や植物の実態について知る。</p> <p>水辺にすむ生物の実態や生態について知る。</p>	<p>全員が作品を仕上げることができるよう目配りをする。</p> <p>自分の使いたい自然の物を拾うことを指示する。</p> <p>箕面に生息する生物や植物の実態を自分の目で確認できるように指示する。</p> <p>水辺の生き物にはどのようなものがあるか、自分の目で確かめさせる。</p>
6	まとめ、発表原稿づくり	
	<p>図鑑、インターネットなどで調べる。</p> <p>個人の箕面の森の生き物リーフレットを作り、模造紙にグループで大きな箕面の森の生き物リーフレットを作る。</p>	<p>学習で、わからなかったことや詳しいことを調べることで理解する。</p> <p>国語の説明文教材「アップとルーズで伝える」で学んだことを使い、リーフレットづくりをする。</p> <p>説明文の三段構成を使って、紹介文を書かせる。</p> <p>資料と説明文がリンクするように指導する。</p>



2	発表会 みんなの前で発表する。 箕面の山について知る。	発表に対して評価をする。 授業で学習したこととの関連付けをする。 少し難しい情報を入れて興味を持たせる。 森林の良さ、森林を守っていかうという指針を伝える。 探検ポイントだけでなく、箕面の森全体について伝える。		
---	-----------------------------------	---	---	---

**(4) プログラムでの連携内容**

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 箕面森林ふれあい推進センター 「森の探検隊」プログラムの指導
2. 大阪森林インストラクター会 「森の探検隊」の補助者として、各班について助言
3. みのお山麓保全委員会 箕面ビジターセンター施設の見学、水生昆虫観察の指導、木工クラフト作りの指導

**(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目**

教科・項目、視点		学習内容
総合 4年社会	自然体験・地域の特色 地元を知る	自分たちの住んでいる特色ある地域について関心を持ち、それらを意欲的に調べることを通して、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。 また、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
4年理科	生命・地球 季節と生物	生物を大切にできる態度を育て、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての見方や考え方を身につけることができるようにする。
道徳 特別活動	・生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 ・自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。	自然体験や体験活動、観察、調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れる。

**(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)**

項目	E S Dの要素 (7つの能力・態度) の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	「多面的」 森林の中で、木や植物、動物のことを観察することや生活の中で利用していることに繋がっていることを理解する。 実際の森林で活動することで、生息する動物や植物について興味・関心を持ち、森林についてより知ろうとする意欲が伸びる。 森林環境を守るために自分たちができることを考えるなど、自然との関係を考えるきっかけとなる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「コミュニケーション」 活動を通して、自分の役割を果たすだけでなく、グループの中で助け合い、意見を交わしながら、ポイントの設問の答えをすることができる。自分の意見を押し通すのではなく、友だちの意見を尊重することができる。 子どもたちそれぞれがグループで活動することによって、意見を交わし合い、行動を選択できる力が身に付く。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「協力」 グループとして伝えたいことを一人で作るのではなく、仲間と推敲し、良いものを作ろうとする姿勢が成長する。 自分の役割以外のことでも進んで協力しようとする協調性が身に付く。 何事にも進んで取り組み、仲間と共に何かを成し遂げようとする事ができる。

**(7) 実施後、参加者の変化**

グループで活動し、自分たちで行動プランやその時折に話し合っで判断することで、自分たちで考え、仲間と協力して行動するという協調性が成長した。何事にも自分たちで話し合っで、自主的に行動する児童が増えた。  
「箕面の森の森林は素晴らしい」「こんな良いところが箕面にあったなんて知らなかった。また、来たい。」など自然を感じることに素晴らしさに気付いた児童が殆どであった。  
また、自分たちが体験して感じたことや考えたことをどのように伝えるかということを考えることで、伝え方や伝える方法などを考えることができた。

# 箕面の森ってすごい！！ だから、みんなに伝えよう！

一見て、触って、聴いて、書いて、伝えるー  
箕面「森の探検隊」



## 箕面市立豊川北小学校

### ★学習の展開①

学習の  
必要感

- ★国語の学習で
  - ・リーフレット作りの構成
  - ・言葉
  - ・体験時の観点を指導



課題設定

- ◇事前学習
- ★グループ決め
- 役割決め
- ポイント決め

★国語の要素  
説明的文章の・知識・  
技能

コミュニケーションカ  
リーダーシップ

★社会の要素  
地域の特色への関心



体験

### ★学習の展開②

#### ◇箕面の森散策

- ・グループそれぞれがポイントを巡り探検ポイントの課題に臨む

★道徳の要素  
自然・生命尊重



★事前学習の観点  
で、写真や情報  
を記録

★国語の既習事項の  
実践

情報収集

### ★学習の展開③

- ◇ポイントには、学校で学習した  
学びを活用する課題がたくさん。

★算数の要素  
量や測定・面積の  
・知識・技能

- ★理科の要素を持つ  
ポイントや  
算数の測定の技能を  
必要とするポイントも



★理科の要素  
季節と生物・天気の  
・知識・技能

体験

### ★学習の展開④

- ◇自然を多面的に知ること  
ができるプログラム

- ★箕面の川の水中に住む  
生物の観察や森に  
生息する動物、植物を  
知る。木の枝、木の実  
などを使っての工作も。



★理科の要素  
季節と生物・天気の  
・知識・技能

★図工の要素  
季節と生物・天気の  
・知識・技能

整理分析

### ★学習の展開⑤

表現

#### ◇発表の準備

- ・調べ学習
- ・リーフレット作り
- ・発表の練習

★社会  
資料の収集・活用・整理



- ★体験したことを深める  
ために調べる。

そして、伝えたいことを既習事項  
をいかして伝わりやすいように  
まとめる。自分たちの意見や考え  
もまとめる。



★国語の要素  
説明的文章の・知識・技能

交流

### ★学習のまとめ・発表会

まとめ  
表現

- ◇作ったリーフレットを示しながら、グループ毎に  
発表を行う。

- ★グループ毎の考え方や同じポイントでも視点の違  
いなどが見られた。



# 箕面の森ってすごい！！ だから、みんなに伝えよう！ —見て、触って、聴いて、書いて、伝える— 箕面「森の探検隊」

## 箕面市立豊川北小学校

### ★箕面「森の探検隊」による 本校の子どもたちの学び

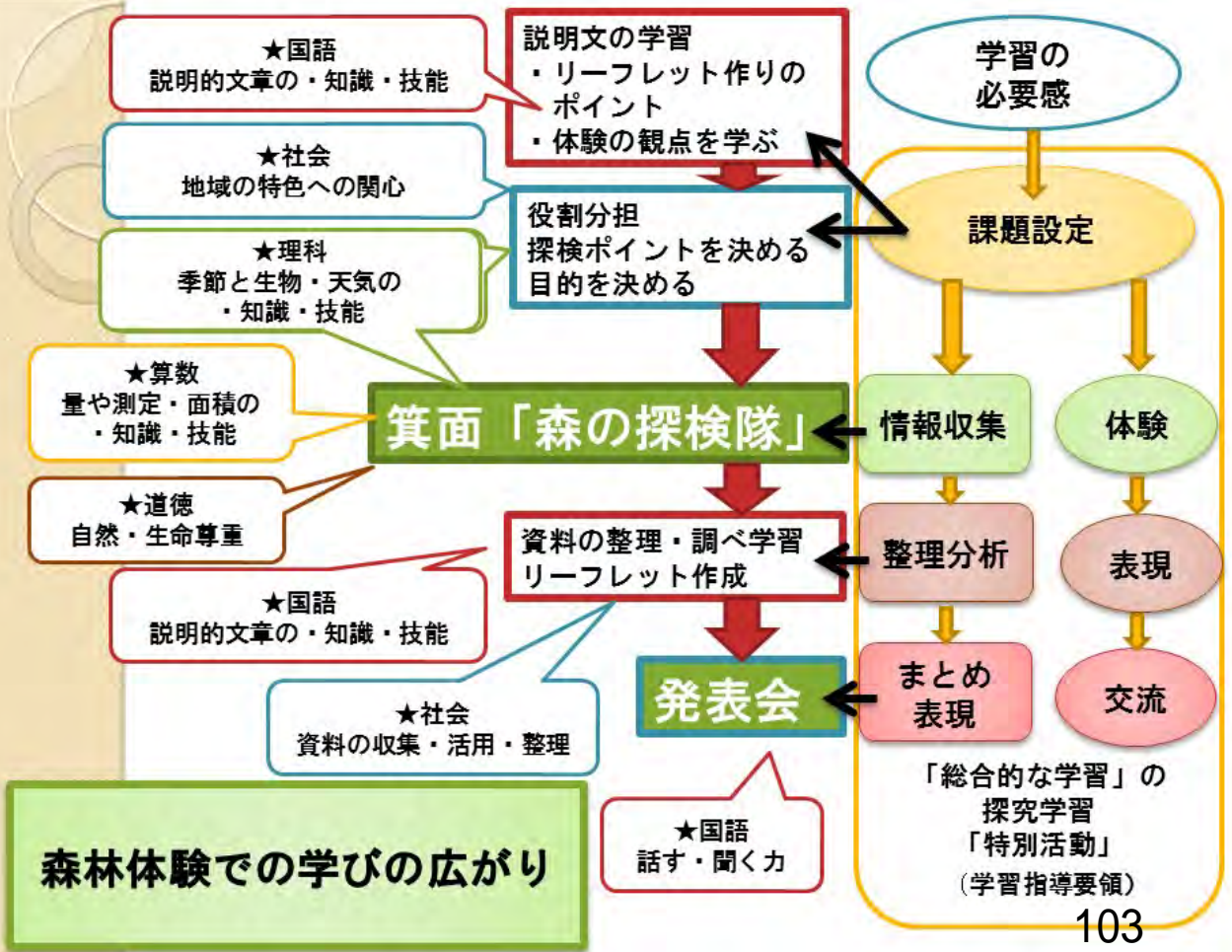
- ★この森を**ずっと大事にして守っていき**たいです。自分たちができることは「ゴミのポイ捨てをやめる」ことや、**やれることをしていきたい**と思いました。
- ★みのお記念の森には、町で過ごしていると気づかなかった植物があり、また、珍しい動物とも会えるかもしれません。この自然を大切にしたいと思います。  
**ぼくたち、私たちにできることは何かを考えて取り組みたいです。**例えば水を大切に使ったり、無駄使せずゴミを減らしたりするなどをしていきたいです。
- ★箕面記念の森は、とても自然豊かで心がリフレッシュされるので、**箕面記念の森をみんなで守っていきましょう。**

### ★森林体験による子どもの学び

- ★見るだけでなく、触れて、匂って、聴いて森林を感じることによる学び。
- ★非日常的な環境へのワクワク感
- ★森林そのものが、子どもを自ら進んで学習に取り組みたいと思わせる絶好のフィールド
- ★様々な教科の実践や実感、発展
- ★グループで活動による協調性
- ★誰でも主役になれる場面がたくさん




森林体験学習は  
子どもにとって素晴らしい  
学びの場



事例報告 H28-6(2)

団体名： 箕面森林ふれあい推進センター・大阪森林インストラクター会・  
箕面ビジターセンター・(豊川北小学校)

プログラム名： 森の探検隊		
(1) プログラムの目標	森の中で、ポイントごとに置いている指令書(設問)とヒントから、回答を考えたり体験をしたりしながら、森林について考えたり、五感を使っての体験から学ぶ。 「森の探検隊」プログラムや箕面ビジターセンター見学などから、身近にある森林やそこに生きる生物を知ること。 また、自分たちの生活に、森林や生き物がどのように関わっているのかを知ること。 そして、今の森林の現状を理解し、どのように関わっていく必要があるかを学ぶこと。	
(2) プログラムの概要	午前中は、「森の探検隊」プログラムを実施し、午後からは、箕面ビジターセンターで、箕面の生き物展示の見学と水生昆虫の観察、木の実を使った木工作品作りを行う。 「森の探検隊」では、4~5名の班で役割分担をして行動する。ポイントで指令書の設問を考え、探検ノートに答えや感じたことなどを記入する。各班には補助者が1名ついて、助言をする。30数ポイントの中から、各班で事前に決めたポイント(5ポイント以上)を回る。ポイントの内容は、森林・昆虫・動植物に関することや体験などがあり、各班共通として、風や鳥の声を感ずるポイントと鹿による被害を考えるポイントを回るようにしている。 ポイントで知ったことや考えたことをビジターセンターの展示で確かめたり、水生昆虫観察から森林と川(水)について考えるなど、学習を深める。 また、木の実などを使った作品作りで、木や自然により親しむ体験をしよう。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等(教材等)
i n (~の中で)、a b o u t (~について)、f o r (~のために) の視点で活動内容を区分		
4	森の探検隊のための準備	先生との打合せ。 先生との現地地下見。 探検ポイントをグループで決める。 グループ内の役割分担を決める
	先生に「森の探検隊」について、理解してもらおう。 下見により、先生に楽しさを理解してもらおう。 安全対策として、服装や支援児童への配慮など、注意すべきことをお互いに確認する。 回るポイントの振り分け、役割分担をしよう。 当日の服装など親への注意喚起をしよう。	
a b o u t - 情報の共有、安全対策		
2	森の探検隊 探検隊の補助者	子どもたちが自分たちで考えることを優先し、学習が深まるように助言をする。また、森林や生き物について考えることや体感してもらうことを通して、体験から学んでもらうように取り組む。 鹿の被害や防止対策から、森林の現状を知ることや何が必要かを考えてもらう。
	   	
i n - 森の中での体験		
2	フォトフレーム作り、自然工作、水辺の生き物調査、箕面ビジターセンター見学	4つに分けて、時間を決めて回る。 各コーナーで指導者がついて、指導する。 地元の箕面の山に生息する生き物や植物を知ること。 川の状態(きれい・汚い)によって、生息する水生昆虫の種類が違ってくことや箕面の山の川がきれいなこと、森林と川との関係を知る。 自分たちが飲んでいる水について考えること。 木の実などの自然にあるものを使って作品を作ることで、親しみを持ってもらう。
	 	
i n - 工作、生き物展示から、体験や観察から学ぶ		

2	発表会 発表会に参加する。	子どもたちの発表を聞き、子どもたちがこの取組を通して何を学んだかを知ること。 今後の取組に対する反省点や改善点を把握する。	
	for、about－発表資料の作成、発表する、箕面の森のためにできることを考える		

**(4) プログラムでの連携内容**

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 豊川北小学校 4年生 「森の探検隊」プログラムを実践
2. 大阪青山大学 「環境」の授業として、今年度初めて、学生に体験してもらう。
3. 大阪森林インストラクター会 「森の探検隊」の補助者として、各班について助言を行う。
4. みのお山麓保全委員会 箕面ビジターセンターの運営団体で、ビジターセンター施設の見学、水生昆虫観察の指導、木工クラフト作りの指導を行う。

**(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目**

教科・項目、視点	学習内容	
感性的経験	森林の中に入ること。 風を感じる。 鳥の声を聞く。	地元にある森の中に入る体験をすることで、身近な自然環境を知る。 展望台で風を感じたり、森の様子を見ることで気持ちがいい感覚を感じるなど、体感する。
自然的特性	木、植物、動物、昆虫を知る。	自分たちの身近にある箕面の山の動物や植物を知ること、自然への関心を深める。 水が山から川に流れてきていることを認識する。
現状・課題	鹿による被害を知る。 対策を知る。 どうしたらよいかを考える。	箕面の山が鹿の被害にあっていることや森を守らないといけないことを知る。 子どもたちに、箕面の山の素晴らしいところをみんなに知ってもらいたいとの思いが生まれ、伝えたいに繋がる。

**(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)**

項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載
①生きて働く「知識・技能」の習得	「多面的」 森林の中で、木や植物、動物のことを観察することや生活の中で利用していることに繋がっていることを理解する。 実際の森林で活動することで、生息する動物や植物について興味・関心を持ち、森林についてより知ろうとする意欲が伸びる。 森林環境を守るために自分たちができることを考えるなど、自然との関係を考えるきっかけとなる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「コミュニケーション」 活動を通して、自分の役割を果たすだけでなく、グループの中で助け合い、意見を交わしながら、ポイントの設問の答えを考えることができる。自分の意見を押し通すのではなく、友だちの意見を尊重することができる。 子どもたちそれぞれがグループで活動することによって、意見を交わし合い、行動を選択できる力が身に付く。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「協力」 グループとして伝えたいことを一人で作るのではなく、仲間と推敲し、良いものを作ろうとする姿勢が成長する。 自分の役割以外のことでも進んで協力しようとする協調性が身に付く。 何事にも進んで取り組み、仲間と共に何かを成し遂げようとする事ができる。

**(7) 実施後、参加者の変化**

「箕面の森の森林は素晴らしい」「こんな良いところが箕面にあったなんて知らなかった。また、来たい。」など自然を感じるものの素晴らしさに気付いてもらえた。  
鹿柵や木の皮を剥いだ痕、鹿のフンなど、鹿との闘いを知ってもらうポイントを回ったことで、子どもたちの発表からも鹿の被害を伝える発表が多くあり、理解を深めるきっかけとできた。



# 森を利用したアクティブ・ラーニング

～ 森を探検し、箕面の自然や文化について学ぼう！～

「森の探検隊」への参加校を募集します。

## Q. 「森の探検隊」とは？

A. 森の中のポイントを5～6人の班で巡回し、各ポイントごとの指令（課題）を班の全員で考え、答えなどを導き出したり、デジカメで撮影したり、自然について楽しく体験しながら学習できる森林環境プログラムです。体験後は、学校で課題や撮影した写真などについて資料等で詳しく調べたりして探検ノートを補完することで、更に理解を深めることができます。

## Q. 「森の探検隊」でどんな学習が出来る？

A. 例えば、「台場クヌギ」というポイントでは、かつて北摂地域一帯で生産されていた（現在も生産されています）「菊炭」（池田炭）の原木として育ててきた台場クヌギを通して、自分達が暮らしている地域の歴史や文化と森との関わりなどを学習します。

また、学習したことの成果として発表会等で報告することにより、国語力や発表能力の向上など、他の教科にも活用していくことも出来ます。

森の探検隊では、子ども達が学びたいと思うポイントを自分たちで選び、課題に対する答えなどを導き出していくことにより、理科・社会・算数・国語・道徳などを総合的に学ぶことが出来ます。

## Q. 何処で誰が実施する？

A. 箕面市箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）内で実施しています。当センター職員やボランティアの方などが、学校と連携して担当します。

## Q. 実施時期・所要時間は？

A. 通年の実施が可能で、1回の所要時間は2時間程度です。

### ●問い合わせ先

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-75  
 林野庁近畿中国森林管理局  
 箕面森林ふれあい推進センター  
 TEL 06 (6881) 2013

## 箕面森林ふれあい推進センターとは・・・

林野庁近畿中国森林管理局箕面森林ふれあい推進センターでは、箕面市の箕面国有林において、クヌギやコナラなど夏緑樹を主体とし、燃料利用などに活用しながら生態系が保全されてきた、北摂地域の伝統的な里山を再生する取組を、地域の子も達や市民ボランティアの協力を得ながら行っています。

また、この整備過程のフィールドを利用して森林環境教育（森の探検隊等）の取組を推進しています。



写真左から「どんぐりの育苗」、「記念植樹」、「下刈り」、「菊炭」



写真上から「シカとの戦い」、「役に立つ葉っぱ」、「森の中は気持ちいい」、「葉っぱのお面で遊ぼう」の各ポイントと「発表会」

ゲートやネットはなんのため？  
内と外の違いは？

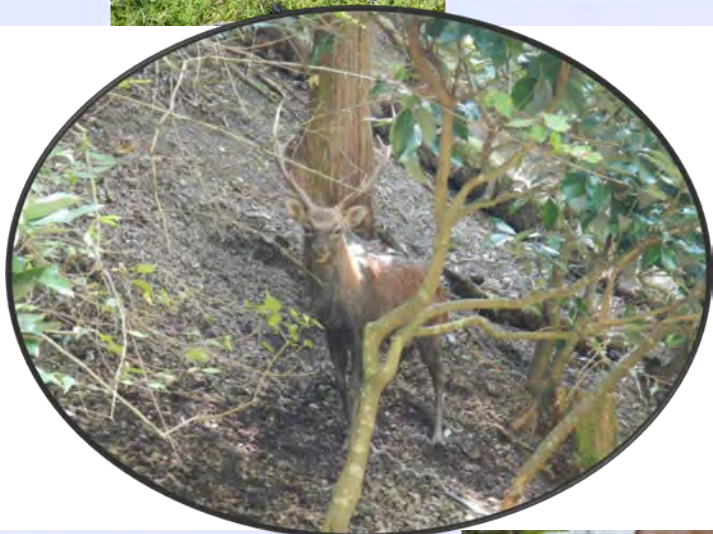
# — 森の探検隊 —



ネットの外には  
黒い糞がいっぱい



木の皮を取ったのは誰だ？



## 探検ポイント



指令書⑦  
 乾いた糞を枝で、  
 つついて崩してみよう。  
 何を食べていたか分かるかな。  
 いったい何のフンだろ  
 分かるかな。

## 探検ポイント



指令書②⑦  
 これは何に見える。  
 エビフライそっくりだね。  
 何でエビフライが山の中に  
 落ちていたのか、  
 その謎を解け。

②⑦のヒント  
 何かがかじってこ  
 うなったらしいぞ。  
 元々は松ぼっくりみ  
 たいだ。



撮影：木山雅博氏

## 探検ポイント



指令書②④  
 どんな昆虫がいたかな。  
 なぜ、昆虫が集まった  
 のか。わかるかな。

## 探検ポイント



指令書③②  
 大きな葉っぱだ。  
 なるべく大きな  
 葉っぱをさがして、  
 お面を作ってみよう。

2はん  
 あかたよ!

なぜ虫が集まるのか?  
 木の中に集まっている木と集まらない木がある  
 なぜかと言ってしまうから若  
 いんきを出さず木はツギツギにノキはいんきを出さ  
 ない。だからツギに虫が集まるのだ。

なぜ木標柱か?  
 わたしたちが何か  
 かのころ豊川七小  
 記念の標柱がたて  
 られました。たてられ  
 たのはわたしたちが  
 5.6歳のころです!

耳をすませば...  
 森の中で一番風の通る場所がてんぼ  
 うだ。だって、なぜ風が通るかという  
 林の中は、木があるにたいして、  
 木が周りにないの、鳥の声や風  
 の音が聞こえる。

ヒノキさんの年令!!  
 木のところに切りか  
 ているところがあり、白と黒  
 の線がたくさん円状になって、  
 その数を数えらと...  
 30!!  
 ヒノキさんは30才だ。

森に落ちている黒豆  
 森林はひみつがたくさんあ  
 るなと思った。鳥の声や風の音が  
 聞こえたり、木の年令が分かったり  
 いんきを出す木や豊川北小植樹記  
 念の標柱があったり、シカのぶんざい  
 があたりと、とても自然あふれる森  
 だなと思った。

## 発表会

